

今回も、人権委員さんを中心に、クラス全員で「部落差別問題の解決のために自分たちにできること」を考えてもらいました。ありがとうございました！！

● イセタのことを忘れないで ●

将来、大切な人がイセタと同じように苦しみを打ち明けてくれたら……？ 軽い気持ちで「関係ないよ」「ふーん、そうなんだ」と流さないでください。今回の人権 LHR で、どう言葉をかけるべきか真剣に悩んだ自分を思い出してください。大切な人が自分のことを打ち明けてくれたその場が、**以前よりも強い絆で結ばれた仲間になる機会**であってほしい、と私たちは思います。



さて、第1回人権 LHR を終えた時、感想の中に「部落差別を知らなければ差別する人はいない。だから放っておけば差別はなくなると思う」というものがありました。しかし本当にそうでしょうか？ 今回学習したように、部落差別は現在もインターネット上などにあ

ふれています。**部落差別をきちんと知らない人に、間違った情報だけがすりこまれていく危険な状況が今ここにあります。そんな状況に、声も出せずに苦しむイセタのような人たちがいます。**「放っておく」ということは、このような状況や、実際に苦しんでいる人の気持ちに対して、何もせず「放っておく」ことになります。ぜひ、「放っておく」のではなく、「つながっていく」ことを選べる人であってください(^_^)

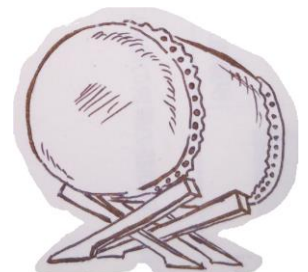
● 「LUMIERE」＝「光」●

では、部落差別問題を解決するためにはどうすればよいと思いますか？ その第一歩は、年度当初から何度も言いますが、「**うわさ(インターネット)や先入観で人の価値を判断しないこと**」、「**面と向かって話してみたり、交流したりすることを通して、人とつながっていく姿勢を身につけること**」だと思います。

ということで、今回「LUMIERE」＝光 を当てるのは、現在、部落差別問題と戦っている人たちです。実は、その方たちが、実際に伊勢高校で講演をしてくださることになりました！ 講演会は11月15日です。よい学びのある日になることを願っています(^_^)

○ 講師紹介 ○

特定非営利活動法人 暮らしづくりネットワーク北芝
らいとぴあ21 (萱野中央人権文化センター)
丸岡朋樹 様



被差別部落地域である大阪の北芝で、差別と向き合いながら、太鼓を通して強いつながりのあるコミュニティーを築いていく体験を語っていただきます。